

# 国公女性協News

2012.5.31  
NO.251

国公労連女性協議会  
Tel: 03-3502-6363  
Email: mail@kokko.or.jp



## 第42回国公女性交流集会開催 ひろげよう 連帯と共同の輪

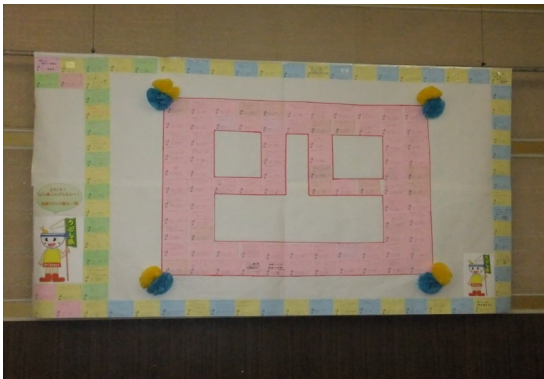
～つなげよう 希望ある未来へ～

5月19日(土)、20日(日)の2日間にわたり、香川県琴平町で第42回国公女性交流集会を開催しました。1日目は記念講演、基調報告と職場・地域からの報告、2日目は5つの分科会と集会のまとめを行いました。全国からのべ251人の仲間が集まり、学び、語り、交流しました。

会場には四国ブロック実行委員会が作成し、四国にいる組合員から寄せられた、300を超えるメッセージで作られたタペス

トリーが飾られました。そして、高松空港では、香川県メーデーで準優勝したというプラカードを持って、参加者を出迎えました。また、今集会のマスコットキャラクター「ぴっぴちゃん」の特製うちわを参加者全員に配布するなど、実行委員から心のこもった歓迎がありました。

今号から数回にわたって、集会の様態や参加者からの声などをお伝えします。



←メッセージで「四国」の「四」字を作ったタペストリー。メッセージには一人ひとりの切実な要求がびっしり。となりには「国」の字も。

記念講演

### フクシマと「オキュパイ・ウォールストリート」 —女性がつながり、世界を変える—

記念講演は、福島県立医科大学講師の後藤宣代さんの「フクシマと「オキュパイ・ウォールストリート」—女性がつながり、世界を変える—」です。

世界各地で起こっている市民運動と憤りの声、そして3.11後、「福島」が「フクシマ」になってしまった、そのフクシマの実情、放射能の脅威などを、熱く語っていただきました。

講演では、「この会場にあるタペストリーにも多くの憤りの声がある。今、世界中の若者が怒り、行動を起こしている。」と、連帯して声をあげることが重要で、行動を起こすによって少しずつ世界は変わってきていること、「言葉は武器になる。We are 99%がその典型例」と、言葉の力を強調した上で、今の運動は「強欲な1%VS我々99%

のたたかい」であるというお話がありました。

また、原発事故後のフクシマについては、後藤さん自らも福島県在住であり、まだ原発事故が収束していない状況が語られました。原発事故による放射能や風評被害により、福島の農民が自ら命を絶ち、それに怒った人々が立ち上がった話などを、涙ながらにお話されました。

「自分のためにはなかなか声をあげることにはできないが、誰かのためには声をあげることができる」と、連帯の重要性を訴えました。

そして、「公務員が一番先頭、一番中軸になるところだから、バッシングを行い、分断しようとしている」と、公務員バッシングの原因を指摘され、「地域と一体になって闘うことが重要」



と、今後のとりくみの示唆を与えてくれました。

なお、講演内容の詳細は、後日発刊の「国公労調査時報」で掲載の予定です。

<参加者からの声>

○女性も、声をあげる時だと思いました。

○声を出せば、行動を起こせば、世論は変わる!

○「私もがんばらなくては」という気持ちがどんどん湧いてきました。



まるでミュージカルを見ているような後藤さんの力強い講演

### 職場・地域からの報告

職場、地域からの報告では、3つの報告がありました。

まず、香川県教職員組合の中尾忍委員長から、育鵬社の教科書問題について報告がありました。育鵬社の教科書は、太平洋戦争を美化し、憲法を敵視するもので、香川県でも現場の声を聞かずにこの教科書を採択する動きがあり、それを許さないとりくみをお話いただきました。実際に採択した学校もありましたが、子どもの教育のためにも何が問題なのか訴えていくうちに、採択を許さない声が大きくなり、今後のとりくみがますます重要になっているという報告でした。

次に、全医労大島青松園支部の新田恵一船長、恵美穂子介護員から、全医労大島官用船問題の報告がありました。ハンセン病患者は国策で長年隔離され、香川には国立ハンセン病療養所の大島青松園があります。しかし、そこにいくための官用船を運転する職員が定年をむかえ、民間委託しようとしたため、それを許さず、職員の再任用を勝ちとった報告がありました。

最後に、全厚生闘争団の綾信

貴さんから、社会保険庁分限解雇撤回闘争について報告がありました。(要旨以下のとおり)



「生まれも育ちも香川県琴平町。社保庁廃止により平成21年12月末、分限免職処分となり国家公務員の身分を剥奪。45年ぶりの分限免職処分で、国の機関が廃止、移管される場合、雇用の継承規定がある。社保庁の場合は、

唯一の例外の国鉄民営化と同じ選抜方式で、より悪質だった。年金の業務がなくなることはなく、年金機構にそのまま移っている。国家公務員の身分保障を無視し、整理解雇の4要件からみても異常である。人員削減の必要性がなく、分限免職回避努力が尽くされておらず、人選の合理性もなく、懲戒処分歴がなくても私の様に免職になった職員もいる。手続きの相当性もない。現在、人事院へ全厚生組合員39名が不服申立をしていて、4カ所で裁判をしている。闘っているのは、失った物が余りにも大きかったから。職を失ったのが原因で家族まで失う。仕事の替えはあっても、家族に代わるものはない。絶対許せない。」

### 新しい母性保護リーフができました!

右→が新しいリーフの表紙です。「青空」をイメージしたブルーの紙です。

このリーフを使って、職場などで母性保護の学習にとりくんでください。そして、学習会などを行った組織は、女性協に是非ご一報をお願いします。

### みんなで考えよう

～健康で働きつづけるために～



みんなでまろう 母性と健康

4月・5月は母性保護月間です

日本国家公務員労働組合連合会 女性協・青年協 2012.4

## 憲法をくらしに生かそう



### 「9の日宣伝」

### 華やかに開催!!

4月9日(月)、毎年恒例の「国公労連女性協主催による「9の日宣伝」を日比谷公園で行いました。(例年3月に開催してありますが、今年は荒天のため4月に延期)

女性協役員をはじめ女性8人が参加、国公労連や各単組の役員も含む合計30人が参加しました。参加した女性全員が「憲法をくらしに生かそう」とリレートークを行い、全労連女性部リーフ「99%の力を合わせて1%の横暴をおしかえそう」を原発ゼロティッシュに入れて配布しま

した。通行人の受け取りが良く、終了時刻前に配布が終了してしまうほどでした。

最後は、女性協事務局次長の森さんが「青い空は」を歌い、宣伝行動を締めくくりました。



常任委員会から

国公女性性交流集会参加の皆様、実行委員の皆様、お疲れさまでした。私にとって、初めて運営側にたつ集会でしたが、何度もくじけそうになったのですが、閉会の時に登壇して、会場を見渡した時には、まさに感無量!でした。集会が成功したのも、皆様のおかげだと思えます。

(事務局長・廣瀬 由美)

次回も参加していただけるよう、奮闘していきます。